



NPO 法人 CTF 松阪は、本年度の総会におきまして、法人の解散を議決いたしましたことをご報告申し上げます。

設立以来多くの皆さまに温かいご支援とご協力を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

なお、NPO 法人を解散致しました後でございますが、近々任意団体として新たに発足致しますので、その準備会で新団体の名称や役員構成を含めまして検討を進めております。“障がい者のIT サポート”という理念は変わりませんので今後ともご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

令和7年度CTF松阪通常総会を開催

令和7年5月24日(土)、松阪市障害者福祉センターにてNPO法人CTF 松阪の令和7年度通常総会が開催されました。当日は雨模様の中、正会員様には多数ご出席いただきありがとうございました。

議長の議事進行により、令和6年度事業報告および令和6年度活動計算書、NPO法人解散の件、令和7年度事業計画および令和7年度活動予算と多くの議案について審議を行い、いずれも原案どおり議決されました。

今年度は法人の解散に伴い清算業務を進めてまいります。皆様のご協力をいただき活動してまいりますのでよろしくお願いいたします。



総会の様子



総会後の集合写真



CTF 松阪の活動を振り返って

Skype サービスが今年の 5 月で終了になったことを知りましたがCTF 松阪も Skype と同時期に設立され、同様な道程をたどっています。当初何もわからない状態で友達に誘われ活動し始めました。パソコンの講師など大それた役割を担当したこともありましたが、Office などのバージョンが年々進化していくなかで、私のスキルは初期状態のままで一向にスキルアップする様子がありません。これも一種のスキルかなと思っています・・・



ありがとう Skype—20 年超の歴史を振り返って



Skype サービスの終了

Skype は 2003 年に誕生しました。当時、インターネット回線を利用した音声通話は画期的な技術とされており、高額な国際電話料金を負担する必要がある状況を変える革新として注目されました。

Microsoft は 2025 年 5 月 5 日をもって、Skype のサービスを正式に終了すると発表しました。この決定は、2003 年に誕生して以来、20 年以上にわたり提供されてきた音声通話やビデオ通話サービスの終焉を意味します。このサービス終了は、Skype アプリの利用者数がピーク時の 3 億人から 2023 年には 3600 万人にまで急減したことや、Microsoft Teams などの競合ソリューションが個人およびビジネス利用の需要を満たしているという現状を背景にしています。近年、Microsoft Teams の普及により、コミュニケーションツール市場でのシェアは大きく変化しており、これが Skype 終了へと繋がる一因となったようです。



Skype が残した功績と技術的影響

Skype は 2003 年の誕生から、音声通話やビデオ通話を手軽にインターネット経由で行えるサービスとして、多くの人々のコミュニケーションのあり方を変えてきました。特に、その無料通話機能は国際電話料金の壁を大きく取り払い、個人だけでなくビジネスにおける国境を越えたコミュニケーションの普及にも貢献しました。また、Skype は単なる通話アプリではなく、リアルタイムでのテキストチャット機能やファイル共有が可能な多機能ツールとしての地位も確立していました。

さらに技術的には、高速かつ安定した通話を実現する「P2P 技術（ピアツーピア）」を導入し、当時のインターネット通信の概念を一新しました。この革新は、現在のオンライン会議ツールの基礎技術としても受け継がれています。特に、Skype の技術的影響は Teams や Zoom といった次世代ツールにも顕著に見られます。



変化するコミュニケーションツールの役割

時代の進化とともに、コミュニケーションツールの役割も大きく変化しています。Skype が登場した 2000 年代初頭は、音声通話の利便性が重視されていましたが、現在ではビデオ通話や画面共有など複合的な機能が求められる時代となっています。また、多くのオンライン会議ツールがスマートフォンやタブレットなどマルチデバイス対応を進化させる中、Skype の役割も徐々に限定的なものとなっていきました。

Microsoft Teams のように業務効率化を支えるサービスは、ビジネスにおけるコミュニケーションの中心となりつつあります。その影響もあって、特にコロナ禍以降はオンライン会議やリモートワークを前提としたサービスが進化を遂げました。今後、コラボレーションをより円滑にするコミュニケーションツールの需要はさらに高まると予想されます。

これからの時代、AI の活用やより直感的な UI デザインを取り入れた次世代のコミュニケーションツールが期待されています。



徒然なるままに

南方からやってきた風来坊ー伊豆半島と丹沢山系の成り立ち！

前号では、紀伊半島の巨岩巨石ができた原因のカルデラについて調べたのう。今回は“伊豆半島”と“丹沢山系”がどのようにしてできたかを調べてみよう。

「南から来た火山のおくりもの」

日本本列島には4つのプレートが集まっていることは以前に調べたことがあったのう。すなわち、ユーラシアプレート・フィリピン海プレート・太平洋プレート・北米プレートじゃ。こんなに多くのプレートが集まっている所は世界でも珍しいそうじゃ。日本で唯一フィリピン海プレートにのっているのが伊豆半島じゃ。

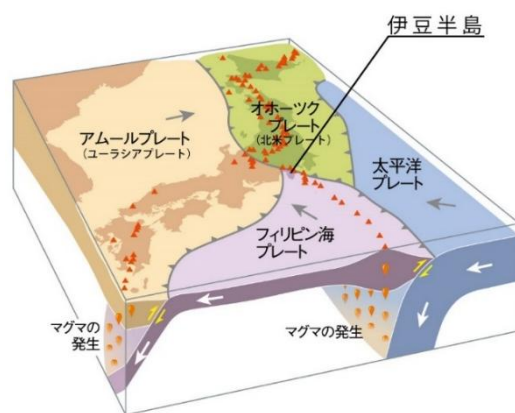
フィリピン海プレートに乗って南からやってきた島が日本本列島に衝突したことで、本来なら海底にあるはずの海底火山の地層がどんどん地上に押し上げられて姿を見せて、更にその後の火山活動で『火山の上に火山が重なった』という、非常に珍しい場所なんじゃそうな。

伊豆半島の歴史は地層などの調査研究によって約2000万年前までたどることができるそうじゃ。約2000万年前、伊豆は本州から数百km南、現在の硫黄島付近にあって深い海の底で活動する海底火山群じゃった。フィリピン海プレートの上にできた海底火山や火山島はプレートとともに北に移動して、やがて100万年ほど前に本州に衝突して、その後現在のような半島の形になったのが約60万年前。半島となった伊豆半島では約20万年前まで陸上のあちこちで噴火がおきて、天城山や達磨山といった伊豆半島の骨格となる大型の火山ができていったそうじゃ。フィリピン海プレートは、今も伊豆半島の大地を本州に押し続けているぞ。

こうしたいくつもの現象が、多くの美しい景観や熱海・伊東などの温泉を有する伊豆の大地を形づくったと言えるのう、日本や世界のどこを探しても同じような例がなく、地球上の特異点と言える場所とのことじゃ。

神奈川県西部にあって最高峰“大山(1252m)”を擁する丹沢山系は約1,700万年前、太平洋の海底火山として誕生して、フィリピン海プレートにのって北上移動し、伊豆半島より早く約500万年前に日本本列島に衝突したと言われておる。その後約100万年前に今の伊豆半島がさらに衝突したことによって、丹沢の隆起が起こって、その原形が作られたと考えられておる。1000mを超える丹沢のあちこちで見つかる貝やサンゴ、オウムガイの化石は、太古の昔に丹沢山系が海の底にあったことの証拠じゃのう。

【参考】伊豆市観光情報サイト、伊豆半島ジオパーク、Microsoft Bing





石川さんと豊臣さん

W・H

「石川や 浜の真砂は尽くるとも 世に盗人の種は尽きまじ」

(石川五右衛門辞世とされている 36 歳没)

石川五右衛門(1558~1594)の生い立ちは、いくつかの説が混在しており、正確なところは不明です。伊賀上野出身説では、百地三太夫に忍術を学び、後に一味を率いる大盗賊となった。

豊臣秀吉の居城、伏見城に押し入り千鳥の香炉を盗もうとして捕らえられ、市中引き回しの上、鴨川三条河原で釜煎りの刑に処されたとのこと。秀吉暗殺を目論んでいたともあり、世の権力者に逆らう不屈きものとして、見せしめのため親族も大人から生後間もない幼児に至るまで、全員が極刑に処されている。

いずれにしても、五右衛門が盗賊として名を広めたのは事実であり、豊臣秀吉の支配下を逃れて活動したことや、忍術に長けていたという説は、その後の歌舞伎や浄瑠璃などの作品に影響を与えています。権力者の家を狙っての盗みは庶民の気晴らしとなり英雄的存在(義賊)となっていた。



上の絵は釜茹での際、子ども(五郎市)を持ち上げて、子どもを守ろうとした場面、あるいは一思いに沈めて楽にしてやろうとしたところなどと言われています。

(つまらない話：アニメのルパン三世に登場する石川五右衛門は彼の 13 代目と言う設定とか?)

「露と落ち 露と消えにし 我が身かな 浪速のことも 夢のまた夢」

豊臣秀吉(1537~1598)(豊臣秀吉の辞世 61 歳)

「世に盗人の種は尽きまじ」

石川先生 令和のこの世、まさにその通りでございます。義賊は何処に？

編集後記

いつも CTF 松阪の活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。このたび、NPO 法人 CTF 松阪は、今年度の総会にて法人を解散することとなりました。約 20 年にわたり活動が続けてこられたのは、ひとえに皆さまの温かいご支援があったからこそです。心より感謝申し上げます。

これまで培ってきたつながりや想いは、今後もそれぞれのかたちで活かしていければと願っております。

これまで本当にありがとうございます。皆さまのご健康とご活躍をお祈り申し上げます。



CTF 通信第 267 号

2025 年(令和 7 年)6 月発行

発行者 IT を活用した障がい者支援 NPO 法人

CTF 松阪

発行責任者 山 田 則 男

住 所 〒515-0083

松阪市中町 6-9-1401

電 話 0598-267333

<http://ctf-matsusaka.sakura.ne.jp/>